

明治時代の赤れんが水道施設見学会の開催について

このたび、国重要文化財の舞鶴旧鎮守府水道施設（多目的屋内施設隣）「旧北吸浄水場第1配水池」の見学会を下記のとおり開催しますのでお知らせします。
なお、第1配水池の公開は昭和39年(1964)水道施設の廃止後初めてです。

記

1 趣 旨

旧北吸浄水場第1配水池は、明治34年に築造されて以来110余年が経ち、平成25年には重要文化財指定10周年、翌26年には廃止50年を迎えます。

そこで、当赤煉瓦倶楽部舞鶴では、市民のみなさんに重厚な明治期の水道遺産の存在を知っていただき、活用等について考える機会となるように見学会を計画しました。

2 主 催 特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴

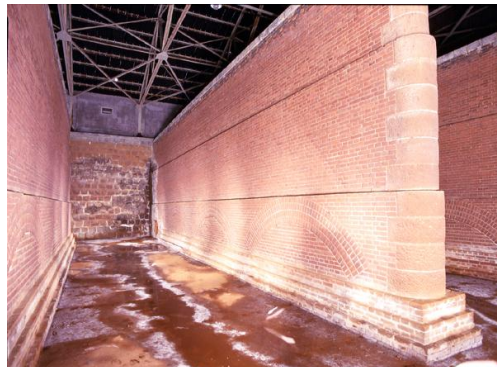
3 場 所 舞鶴市字北吸509番地 （多目的屋内施設の隣）

4 日 時 1回目 平成24年11月18日（日）10:00～15:00
2回目 同 年12月 2日（日）10:00～15:00

5 対 象 一般市民（安全のため、健脚者に限らせていただきます。）

6 施設概要・地図等 別紙のとおり

<お問い合わせ先> 特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 理事長 馬場英男 まで
TEL 090-3281-7539



<重要文化財 舞鶴旧鎮守府水道施設について>

明治34年10月、明治政府は海軍の舞鶴鎮守府を設置し、同時に艦船用飲料水を確保するために与保呂桂貯水池ならびに北吸浄水場などの上水道施設を完成させた。太平洋戦争後、海軍の上水道施設は舞鶴市が引き継いだ。昭和39年11月、北吸浄水場はその役割を終えた。昭和40年、3基の濾過池は北吸市民プールとして生まれ変わったが、2基の配水池は利用の妙案もなくそのまま放置されてきた。

平成8年、(財)日本ナショナルトラストによる赤煉瓦建造物モデル調査として第1配水池の調査が実施され、その概要が明らかになった。配水池の規模は縦27.2m、横20.25m、深さ5.6mで、西側の第1配水池は石張りコンクリート造、東側の第2配水池はコンクリート造であり、両池とも煉瓦造導水壁が4.5m間隔で左右交互に5列立ち並ぶ。また、上屋は大正15年に建てられたもので、壁は煉瓦造、屋根は鉄骨トラス組み波トタン葺である。

平成15年、旧第2配水池については、浦入遺跡発掘調査出土品収蔵庫として活用することになり、池底から仮設足場を組んで床を張り、見学者用に池底に降りる仮設階段が設けられたが、見学者からは圧倒的迫力で迫る煉瓦造導水壁に驚きの声が上がった。

平成15年12月、桂貯水池をはじめ岸谷貯水池、旧北吸浄水場配水池など、本市に残る明治～大正期の旧海軍上水道諸施設は、文化庁から「舞鶴旧鎮守府水道施設は、軍部の建設による最古期の本格的な水道施設であるばかりでなく時代的特色がよく表れた多様な堰堤遺構群がまとめて残っていて水道技術史上価値が高く、配水池、砂防施設等の付属施設は近代水道システム構成を知る上で重要である」として一構(ひとかまえ)で重要文化財に指定された。



旧北吸浄水場第1配水池の位置